

2019 年度「社会研究の世界」指定文献

【注意】この文献リストは、2019 年度の一橋大学社会学部 1 年生向け科目「社会研究の世界」で配布されたものです。
2020 年度の「社会研究の世界」で課される中間レポート・期末レポート作成用の文献リストとは異なります。これらのレポート作成の際には、授業で配布される 2020 年度用の文献リストを用いてください。

1. 社会学・社会調査(佐藤・町村)

(社会動態研究分野(社会学・社会調査)の各教員の推薦によります)

(参考 ○初めてでも読みやすい ●一歩進んで挑戦を(町村の個人的感想です!))

◎入門 社会学的思考への招待

ジグムント・バウマン&ティム・メイ『社会学の考え方』第2版 ちくま学芸文庫、2016 年○

C・ライト・ミルズ『社会学的想像力』ちくま学芸文庫版、2016 年○

E.H.カー『歴史とは何か』岩波新書、1962 年○

川北稔『世界システム論講義 ヨーロッパと近代世界』ちくま学芸文庫、2016 年○

見田宗介『まなざしの地獄』河出書房新社版、2008 年○

吉見俊哉『博覧会の政治学 まなざしの近代』講談社学術文庫版、2010 年○

土井隆義『友だち地獄—「空気を読む」世代のサバイバル』ちくま新書、2008 年○

井上順孝編『宗教社会学を学ぶ人のために』世界思想社、2016 年○

◎古典 社会学の古典から学ぶ

ヴェルナー・ゾンバルト『恋愛と贅沢と資本主義』講談社学術文庫○

ヴェルナー・ゾンバルト『ブルジョワ 近代経済人の精神史』講談社学術文庫○

エミール・デュルケーム『自殺論』中公文庫○●

エミール・デュルケーム『社会学的方法の規準』講談社学術文庫○

マルセル・モース 『贈与論』岩波文庫○●

マックス・ヴェーバー『職業としての学問』『職業としての政治』岩波文庫○

マックス・ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』岩波文庫○●

マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫(日経 BP クラシック版も新訳で読みやすい)○●

ゲオルク・ジンメル『ジンメル・コレクション』ちくま学芸文庫○

◎研究の世界に足を踏み入れる

菊谷和宏、『「社会」(コンヴィヴィアリティ)のない国、日本——ドレフュス事件・大逆事件と荷風の悲嘆』講談社(講談社選書メチエ)2015 年○

M・B・マクガイア『宗教社会学——宗教と社会のダイナミクス』明石書店、2008 年○●

荻野美穂『ジェンダー化される身体』勁草書房、2002 年○

上野千鶴子『生き延びるための思想 —ジェンダー平等の罨』岩波書店、2006 年○

メアリー・ルイーゼ・ロバーツ(佐藤文香監訳/西川美樹訳)『兵士とセックス —第二次世界大戦下のフランスで米

兵は何をしたのか?』明石書店、2015年○●

P・バーガー&T・ルックマン『現実の社会的構成』新曜社、2003年版 ●

◎社会調査の切れ味を知る

ポール・ウィリス『ハマータウンの野郎ども』ちくま学芸文庫版、1998年○

筒井淳也『仕事と家族 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』中公新書、2015年○

W・H・ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』有斐閣、2000年○●

2. 国際社会学(森)

【課題文献】

1-a. 小井土彰宏 2002 「境界をめぐる思考 ——国際社会的な視点の社会学にとっての意味」『一橋論叢』127(4).

1-b. ————— 1992 「アメリカ国家とメキシコ系「非合法」移民労働者」百瀬・小倉『現代国家と移民労働者』有信堂.

1-c. ————— 2002 「NAFTA 圏と国民国家のバウンダリ ——経済統合の中での境界の再編成」『講座国際社会3 国民国家はどう変わるか』東京大学出版会.

(※1-a~cは3つ合わせて1冊分とする。)

2. 野宮大志郎・西城戸誠 2016 『サミット・プロテスト ——グローバル化時代の社会運動』新泉社.

3. Sheba M. George(伊藤りり監訳)2011 『女が先に移り住むとき ——在米インド人看護師のトランスナショナルな生活世界』有信堂.

4. 樋口直人 2012 『日本のエスニック・ビジネス』世界思想社

5. 樋口直人・稲葉奈々子ほか、2007 『国境を越える ——滞日ムスリム移民の社会学』青弓社.

6. 町村敬志 1999 『越境者たちのロスアンゼルス』平凡社.

7. 吉野耕作 1997 『ナショナリズムの文化社会学 ——現代日本のアイデンティティの行方』名古屋大学出版会.

8. 渋谷努 2005 『国境を超える名誉と家族 ——フランス在住モロッコ移民をめぐる「多現場」民族誌』東北大学出版会.

【一般的な教科書】

梶田孝道編 2005 『新・国際社会学』名古屋大学出版会.

宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編 2015 『国際社会学』有斐閣.

【2年次以降の推奨文献】

小井土彰宏編 2017 『移民受け入れの国際社会学』名古屋大学出版会.

森千香子 2016 『排除と抵抗の郊外 ——フランス(移民)集住地域の形成と変容』東京大学出版会

3. 哲学・倫理学・思想史(井頭)

植村邦彦『市民社会とは何か』平凡社、2010年、

大津真作『異端思想の500年ーグローバル思考への挑戦ー』京都大学出版会、2016年、

神島裕子『ポスト・ロールズの正義論』ミネルヴァ書房、2015年、

クレプス『自然倫理学』みすず書房、2011年、

- 米本昌平『バイオエシックス』講談社、1985
齋藤純一『公共性』岩波書店、2000年、
寄川条路編『グローバル・エシックス』ミネルヴァ書房、2009年、
山内志朗『小さな倫理学入門』慶応義塾大学出版会、2015年
加藤尚武『現代倫理学入門』講談社、1997年
重田園江『社会契約論 ―ホブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』筑摩書房、2013年
ロイ・ポーター(見市雅俊訳)『啓蒙主義』岩波書店、2004年
野口雅弘『官僚制批判の論理と心理 ―デモクラシーの友と敵』中央公論新社、2011年
永井均『〈子ども〉のための哲学』講談社、1996年
香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2009年
馬淵浩二『貧困の倫理学』平凡社、2015年
柴田正良『ロボットの心 ―7つの哲学物語』講談社、2001年
野矢茂樹『哲学の謎』講談社、1996年
榛葉豊『頭の中は最強の実験室 ―学問の常識を揺るがした思考実験』化学同人、2012年

4. 文芸・言語・民族文化(洪)

- ヴァルター・ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」(1935-1936) 久保哲司訳(ヴァルター・ベンヤミン著、浅井健二郎編訳『ベンヤミン・コレクション1』、ちくま学芸文庫、1995年 所収)
ロラン・バルト「作者の死」(1968) および「作品からテキストへ」(1971)(ロラン・バルト著、花輪光訳『物語の構造分析』、みすず書房、1979年 所収)
廣野由美子『批評理論入門―『フランケンシュタイン』解剖講義』中公新書、2005年
衣畑智秀(編)『基礎日本語学』、ひつじ書房、2019年
野嶋剛『台湾とは何か』、ちくま新書、2016年

5 社会心理学(安川)

- 下條信輔(1996)『サブミナル・マインド―潜在的人間観のゆくえ』中公新書
山岸俊男(2000)『社会的ジレンマ―「環境破壊」から「いじめ」まで』PHP 新書
亀田達也(2017)『モラルの起源―実験社会科学からの問い』岩波新書
小坂井敏晶(2011)『人が人を裁くということ』岩波書店
奥村隆(2013)『反コミュニケーション』弘文堂
Ch. チャブリス & D. シモンズ(木村博江訳)(2014)『錯覚の科学』文藝春秋
池田謙一(2013)『社会のイメージの心理学―ぼくらのリアリティはどう形成されるか』サイエンス社
橋元良明(2011)『メディアと日本人―変わりゆく日常』岩波新書
松田美佐(2014)『うわさとは何か ― ネットで変容する「最も古いメディア」』中公新書

6. 社会人類学(大杉)

- ジェームズ・フレーザー(2003)『初版 金枝篇(上・下)』筑摩書房
ブロンスワフ・マリノフスキ(2010)『西太平洋の遠洋航海者』講談社

クロード・レヴィ=ストロース(2014)『月の裏側(日本文化への視角)』中央公論新社
クロード・レヴィ=ストロース(2016)『火あぶりにされたサンタクロース』KADOKAWA
コリン・ターンブル(1974)『ブリンジ・ヌガグー食うものをくれ』筑摩書房
エドゥアルド・ヴィヴェイロス・デ カストロ(2015)『インディオの気まぐれな魂』水声社
ルース・ベネディクト(2005)『菊と刀——日本文化の型』講談社
アン・アリスン(2010)『菊とポケモン——グローバル化する日本の文化力』
磯野真穂(2015)『なぜふつうに食べられないのか: 拒食と過食の文化人類学』春秋社
小川さやか(2016)『「その日暮らし」の人類学 もう一つの資本主義経済』光文社
松村圭一郎(2017)『うしろめたさの人類学』ミシマ社

7. 社会地理学・地球科学・環境科学(上田・大瀧)

赤嶺 淳(2013)『グローバル社会を歩く—かかわりの人間文化学』新泉社
上田 元(2011)『山の民の地域システム—タンザニア農村の場所・世帯・共同性』東北大学出版会(第1章, およ
び関心をもった任意の1章の, 合わせて2章)
ロビン・コーエン、ポール・ケネディ著(2000)山之内靖監訳(2003)『グローバル・ソシオロジー 格差と亀裂』平凡社
ロビン・コーエン、ポール・ケネディ著(2000)山之内靖監訳(2003)『グローバル・ソシオロジー ダイナミクスと挑戦』平
凡社
小林誠、熊谷圭知、三浦徹編(2011)『グローバル文化学』法律文化社
佐藤章(2015)『ココア共和国の近代 コートジボワールの結社史と統合的革新』アジア経済研究所
佐藤寛編(2011)『フェアトレードを学ぶ人のために』世界思想社
佐藤寛、浜本篤史、佐野麻由子、滝村卓司編著(2015)『開発社会学を学ぶための60冊』明石書店
島田周平(2007)『現代アフリカ農村—変化を読む地域研究の試み—』古今書院
島田周平・上田元編(2017)『アフリカ』朝倉書店
内藤正典(2006)『イスラーム戦争の時代 暴力の連鎖を解くか』NHK ブックス
ポール・ノックス、スティーヴン・ピンチ著(1982, 2009)川口太郎他訳(2005, 2013)『都市社会地理学』古今書院
村井吉敬(2007)『エビと日本人II—暮らしのなかのグローバル化』岩波書店(新書)

8. 教育社会学(太田)

ジャン=ジャック・ルソー『エミール(上)(中)(下)』岩波文庫、1962・63・64年。
イヴァン・イリッチ『脱学校の社会』東京創元社、1977年。
フィリップ・アリエス『〈子供〉の誕生—アンシャン・レジーム期の子供と家族生活』みすず書房、1980年。
木村元『学校の戦後史』岩波新書、2015年。
中内敏夫・太田素子・関啓子編『人間形成の全体史—比較発達社会史への道』大月書店、1998年。
青木利夫・柿内真紀・関啓子編『生活世界に織り込まれた発達文化—人間形成の全体史への道』東信堂、2015年。
関啓子『多民族社会を生きる』新読書社、2002年。
丸山英樹・太田美幸編『ノンフォーマル教育の可能性』新評論、2013年。
山田肖子『国際協力と学校』創成社新書、2009年。
朴三石『外国人学校』中公新書、2008年。

- ケネス・ハウ『教育の平等と正義』東信堂、2004年。
- バーナード・クリック『シティズンシップ教育論』法政大学出版局、2011年。
- エイミー・ガットマン『民主教育論』同時代社、2004年。
- 浅井幸子ほか『教師の声を聴く 教職のジェンダー研究からフェミニズム教育学へ』学文社、2016年。
- 佐藤学ほか編『岩波講座 教育 変革への展望 第6巻 学校のポリティクス』岩波書店、2016年。
- R・P・ドーア『学歴社会 新しい文明病』岩波書店、2008年。
- ポール・ワツラウィックほか『変化の原理』法政大学出版局、2011年。
- 荻谷夏子『評伝 大村はま』小学館、2010年。
- 天野郁夫『増補 試験の社会史』平凡社、2007年。
- 竹内洋『日本のメリトクラシー増補版』東京大学出版会、2016年。

9. スポーツ社会学(尾崎)

- 多木浩二『スポーツを考える—身体・資本・ナショナリズム』ちくま新書、1995年。
- A.ジンバリスト『オリンピック経済幻想論』ブックマン社、2016年。
- 高津勝・尾崎正峰編『越境するスポーツ』創文企画、2006年。
- 齊藤一彦・岡田千あき・鈴木直文編著『スポーツと国際協力』大修館書店、2015年。
- 松橋崇史・金子郁容・村林裕『スポーツのちから:地域をかえるソーシャルイノベーションの実践』慶應義塾大学出版会、2016年。
- 石坂友司・松林秀樹編著『〈オリンピック遺産〉の社会学』青弓社、2013年。
- 坂上康博『スポーツと政治(日本史リブレット 58)』山川出版社、2001年。
- 川口智久・三輪定宣編『先生、殴らないで!—学校・スポーツの体罰・暴力を考える』かもがわ出版、2013年。
- 高井昌史『女子マネージャーの誕生とメディアスポーツ文化におけるジェンダー形成』ミネルヴァ書房、2005年。
- 中村太郎『パラリンピックへの招待』岩波新書、2002年。
- 遠藤雅子『スペシャルオリンピックス』集英社新書、2004年。
- 鷺田清一『ちぐはぐな身体』ちくま文庫、1995年。
- R.カイヨフ『遊びと人間』講談社学術文庫、1990年。
- N.ホーンビイ『ぼくのプレミアライフ』新潮文庫、1992年。
- 中村敏雄『オフサイドはなぜ反則か』平凡社、2001年。

10. 政治学(中北)

古典

- ヴェーバー『職業としての政治』岩波文庫、1980年
- 丸山眞男『現代政治の思想と行動』未来社、2006年

政治史

- 吉田裕『日本人の戦争観』岩波現代文庫、2005年
- 吉田裕『日本軍兵士』中公新書、2018年
- 小熊英二『〈民主〉と〈愛国〉』新曜社、2002年
- ホブズボーム『20世紀の歴史』全2巻、三省堂、1996年

現代政治分析

中北浩爾『現代日本の政党デモクラシー』岩波新書、2012年

中北浩爾『自民党—「一強」の実像』岩波新書、2017年

飯尾潤『日本の統治構造』中公新書、2007年

水島治郎『ポピュリズムとは何か』中公新書、2016年

比較政治・政治思想

田中拓道『よい社会の探求』風行社、2014年

田中拓道『福祉政治史』勁草書房、2017年

宇野重規『保守主義とは何か』中公新書、2016年

神島裕子『正義とは何か』中公新書、2018年

※参考 教科書および方法論【→レポートの課題図書としては選択しないでください】

砂原庸介・稗田健志・多湖淳『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア、2015年

久米郁男ほか『政治学(補訂版)』有斐閣、2011年

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史『比較政治制度論』有斐閣アルマ、2008年

新川敏光ほか『比較政治経済学』有斐閣アルマ、2004年

上神貴佳・三浦まり編『日本政治の第一歩』有斐閣ストゥディア、2018年

網谷龍介・成廣孝・伊藤武編『ヨーロッパのデモクラシー(第2版)』ナカニシヤ出版、2014年

平島健司・飯田芳弘『ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会、2010年

宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣アルマ、2013年

川崎修、杉田敦編『現代政治理論(新版)』有斐閣アルマ、2012年

久米郁男『原因を推論する—政治分析方法論のすすめ』有斐閣、2013年

11. 総合政策(猪飼)

- ・香取照幸『教養としての社会保障』東洋経済新報社、2017年。
- ・金子充『入門貧困論』明石書店、2017年。
- ・白波瀬達也『貧困と地域：あいりん地区から見る高齢化と孤立死』中公新書、2017年。
- ・橋本健二『新・日本の階級社会』講談社現代新書、2018年。
- ・吉原祥子『人口減少時代の土地問題：「所有者不明化」と相続、空き家、制度のゆくえ』中公新書、2017年。
- ・濱口桂一郎『若者と労働——「入社」の仕組みから解きほぐす』中央公論新社、2013年。
- ・広井良典『コミュニティを問いなおす——つながり・都市・日本社会の未来』筑摩書房、2009年。
- ・マックス・ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』岩波文庫、1998年。
- ・ガルブレイス『ゆたかな社会 決定版』岩波書店、2006年。
- ・フリードリッヒ・ハイエク 2016『隷従への道』日経BP社、2016年。
- ・岩田正美『社会的排除——参加の欠如・不確かな帰属』有斐閣、2008年。
- ・岩田正美『貧困の戦後史：貧困の「かたち」はどう変わったのか』筑摩書房、2017年。

12. 歴史社会(貴堂)

【歴史学の方法への問い】

東京歴史科学研究会編『歴史を学ぶ人々のために—現在をどう生きるか—』岩波書店、2017年
E.H.カー『歴史とは何か』(岩波新書、1962年)、820円＋税。

リン・ハント『グローバル時代の歴史学』岩波書店、2016年

色川大吉『ある昭和史—自分史の試み—』(中公文庫、2010年)

大門正克『語る歴史、聞く歴史—オーラルヒストリーの現場から—』(岩波新書、2017年)

成田龍一『近現代日本史と歴史学—書き替えられてきた過去—』(中公新書、2012年)

【担当教員の加藤から】

吉見義明『従軍慰安婦』岩波新書、1995年

中野敏男ほか編『「慰安婦」問題と未来への責任』大月書店、2018年

金富子・板垣竜太編『朝鮮人「慰安婦」と植民地支配責任』御茶の水書房、2015年

姜徳相『朝鮮人学徒出陣—もう一つのわだつみのこえ』岩波書店、1997年

井上勝生『明治日本の植民地支配—北海道から朝鮮へ—』岩波書店、2013年

水野直樹『創氏改名—日本の朝鮮支配の中で—』岩波新書、2008年

徐京植『在日朝鮮人ってどんなひと?』平凡社、2012年

梶村秀樹『排外主義克服のための朝鮮史』平凡社ライブラリー、2014年

【各地域の歴史】

安丸良夫『日本の近代化と民衆思想』平凡社ライブラリー、1999年

藤井譲治『シリーズ日本近世史1 戦国乱世から泰平の世へ』岩波新書、2015年

高埜利彦『シリーズ日本近世史3 天下泰平の時代』岩波新書、2015年

藤田 覚『シリーズ日本近世史5 幕末から維新へ』岩波新書、2015年

鬼頭 宏『文明としての江戸システム』講談社学術文庫、2010年

渡辺尚志『百姓の力』角川ソフィア文庫、2015年

牧原憲夫『文明国をめざして』(小学館、2008年)

松沢裕作『町村合併から生まれた日本近代—明治の経験—』(講談社、2013年)

藤野裕子『都市と暴動の民衆史—東京・1905-1923年—』(有志舎、2015年)

鹿野政直『日本の現代』(岩波ジュニア新書、2000年)

成沢光『現代日本の社会秩序—歴史的起源を求めて—』(岩波書店、2011年)

高岡裕之『総力戦体制と「福祉国家」—戦時期日本の「社会改革」構想—』(岩波書店、2011年)

宮崎市定『雍正帝—中国の独裁君主』(中公文庫)1996年

毛里和子『日中関係—戦後から新時代へ』(岩波新書)2006年

川北稔『世界システム論講義 ヨーロッパと近代世界』ちくま学芸文庫

川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書

イリス・オーゴ『プラートの商人: 中世イタリアの日常生活』篠田綾子、徳橋曜訳(白水社、2008年)

ジャン・クロード・シュミット『中世の迷信』松村剛訳(白水社、1998年)

ジャック・ル・ゴフ『子どもたちに語るヨーロッパ史』前田耕作、川崎万里訳(ちくま学芸文庫、2009年)

石川明人『キリスト教と戦争: 「愛と平和」を説きつつ戦う論理』(中公新書、2016年)

本村凌二『馬の世界史』(中公文庫、2013年)

ロバート・ダーントン『猫の大虐殺』岩波現代文庫、2007年

兼子歩、貴堂嘉之編『「ヘイト」時代のアメリカ史—人種・民族・国籍を考える—』(彩流社、2017年)
中野聡『東南アジア占領と日本人—帝国・日本の解体』岩波書店、2011年

13. 地球社会研究(ルイス)

社会学研究科地球社会研究専攻の各教員の本については、

http://isgi.soc.hit-u.ac.jp/?page_id=38&lang=ja などから、検索してください。

I. グローバル社会

シドニー・ミンツ『甘さと権力:砂糖が語る近代史』平凡社 1988

今福龍太『クレオール主義』ちくま学芸文庫 2003

管啓次郎『斜線の旅』インスクリプト 2010

中村和恵『日本語に生まれて—世界の本屋さんで考えた』岩波書店 2013

サスキア・サッセン『グローバル・シティ』ちくま新書 2018

伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か—液状化する世界を読み解く』平凡社新書 2002

II. 超領域研究・ひとり学際研究

宮地尚子『学問のクレオール』一橋論叢 127(4): 462-481, 2002

<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/10300/1/ronso1270401160.pdf>

森岡正博 『総合研究の理念—その構想と実践』現代文明学研究 1:1-18, 1998

<http://www.kinokopress.com/civil/0101.htm>

(上記の二つで、1冊とカウントします)

湯川やよい『アカデミック・ハラスメントの社会学』ハーベスト社、2014

エドワード・サイード『知識人とはなにか』平凡社 1998

III. ト라우マ研究

ジュディス・ハーマン『心的外傷と回復(増補版)』みすず書房 1999

フランツ・ファノン『黒い皮膚・白い仮面』みすず書房 1998

ティム・オブライエン『本当の戦争の話しよう』文春文庫 1998

宮地尚子『トラウマ』岩波新書 2013

宮地尚子『環状島:トラウマの地政学』みすず書房 2007

IV. 医療と社会／文化

医学書院の「ケアをひらくシリーズは、どれもオススメです。名物編集者・白石正明さんによる。

<http://www.igaku-shoin.co.jp/seriesDetail.do?seriesId=28&kind=series>